

B-26 衛生加工紙の実際応用に関する研究，ニトロフラン加工紙ナプキンの皮膚に及ぼす影響について（続報）  
東京家政学院短大 ○吉田玲子， 関東逓信病院 稲福盛栄

目的 乳児用に作られている紙おむつや紙ナプキンに添加されている衛生加工剤が、皮膚に悪影響を及ぼすかどうかを検討することは、重要な課題である。われわれは、衛生加工効果（細菌の発育阻止効果）があると認めたニトロフラン加工紙ナプキンを実際に使用して、加工剤の皮膚に及ぼす影響について検討することを目的とした。

方法 昭和48年2月より昭和49年1月まで、病院で出生した新生児1,186名を、A、B、C 3群に分け、出生直後より退院まで、下記の要領でおむつを使用し、その間（約1週間）における臀部発赤の発生状況を比較検討した。

A群381名には、布おむつの上に加工紙ナプキンを重ねて使用した。

B群373名には、布おむつの上に未加工紙ナプキン（紙質は加工紙と同じ）を重ねて使用した。

C群432名には、布おむつのみを使用した。

結果 臀部発赤の発生率は、A群23.36%、B群28.15%、C群27.78%で、3群間における発生率の差には、検定の結果、統計的な有意の差は認められず、本実験においては、皮膚への悪影響は認められなかった。また、臀部発赤発生率と新生児室内湿度との関連について検討したところ、3群ともに、統計的な有意の相関が認められた。